



平成29年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年7月14日

上場会社名 株式会社ヒト・コミュニケーションズ 上場取引所 東  
 コード番号 3654 URL <http://hitocom-ir.com/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)安井豊明  
 問合せ先責任者 (役職名)社長室長 (氏名)飯島幸一 (TEL) (03)5979-7749  
 四半期報告書提出予定日 平成29年7月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第3四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第3四半期	22,735	5.8	2,132	△8.0	2,081	△10.6	1,243	△8.7
28年8月期第3四半期	21,492	11.0	2,318	32.4	2,327	32.4	1,362	38.3

(注) 包括利益 29年8月期第3四半期 1,255百万円(△7.7%) 28年8月期第3四半期 1,360百万円(38.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第3四半期	69 50	—
28年8月期第3四半期	76 14	—

(注) 当社は、平成28年2月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。前期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第3四半期	12,286	9,102	73.8
28年8月期	11,539	8,088	69.9

(参考) 自己資本 29年8月期第3四半期 9,070百万円 28年8月期 8,066百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期	—	5 75	—	7 00	12 75
29年8月期	—	6 50	—		
29年8月期(予想)				6 50	13 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,270	5.0	2,960	5.6	2,965	5.5	1,740	11.3	97 21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

業績予想に関する注記: 平成29年6月23日に当社が公表いたしました「株式会社ビービーエフの株式の取得(子会社化)及び連結子会社等の異動に関するお知らせ」に記載のとおり、本件の当社連結業績に与える影響は現在精査中であります。業績予想の修正が必要な場合には速やかにお知らせいたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P.10「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年8月期3Q	17,900,000株	28年8月期	17,900,000株
29年8月期3Q	584株	28年8月期	584株
29年8月期3Q	17,899,416株	28年8月期3Q	17,899,416株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、平成28年2月1日付で、普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。  
当該株式分割が前期首に行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 決算補足説明資料は、作成後当社ホームページに速やかに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジア新興国等の景気の先行きの不確実性による下振れ懸念はあるものの、政府の経済対策や金融政策等により、雇用・所得環境の改善傾向が継続しており、企業収益も改善していることから、景気は緩やかな回復基調が継続いたしました。

当社グループが属する営業支援系アウトソーシング業界においては、雇用関連の各種指標の持続的な改善により、小売・サービス分野における人手不足は深刻化している一方で、企業の人材採用意欲は依然旺盛であることから、当社グループが提供する各種人材サービスに対するニーズは引き続き堅調に推移いたしました。

このような環境のもと、当社グループは取扱商材分野を家電、ブロードバンド、モバイル、ストアサービス、観光、コールセンター他の6区分(注)1(注)2に分類しており、従来中心としていた家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野に加え、ストアサービス分野、観光分野、コールセンター他分野の営業強化により、すべての取扱商材分野をバランスよく成長させることでポートフォリオを充実させ、繁閑や商材のライフサイクルによる影響を最小限にとどめて経営基盤の安定を図っております。

家電分野におきましては、理美容家電、健康家電、エアコン等の季節家電、冷蔵庫・洗濯機等の大型家電の販売が総じて堅調に推移したほか、テレビについても4Kテレビ等を中心に高価格帯商品の販売が堅調に推移するなど、消費者との接点を担う販売員に対する需要は底堅く推移しております。

ブロードバンド分野におきましては、平成29年3月末時点の国内のブロードバンドサービスの契約数が1億8,875万件(前年同月比117.7%(注)3)、そのうち平成29年3月末時点のF T T Hアクセスサービス(光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス)の契約数は2,931万件(前年同月比105.2%(注)3)となっており、当社グループが主たるマーケットとする光回線市場についても契約数の増加が継続している状況であります。また、通信事業者により光回線の卸売が開始されたことにより、新規参入事業者を中心に当該分野における専門性の高い販売員に対する需要は底堅く推移しております。

モバイル分野におきましては、平成29年3月時点の携帯電話契約数は1億6,272万件(前年同月比104.0%(注)4)、BWAアクセスサービス(2.5GHz帯を使用する広帯域移動無線アクセスシステム(WiMAX等)でネットワークに接続するアクセスサービス)の契約数は2,480万件(前年同月比137.4%(注)4)と前年を上回っており、通信料金支出の低減を求める一般消費者ニーズを背景とした格安SIM・格安スマホ等への契約加入の需要も堅調であることから、当該分野における販売支援に対する需要は引き続き高い状況が続いております。

観光分野におきましては、中近東・欧州の情勢不安等による海外旅行の取扱額の減少、大雪等による北海道方面の需要の落ち込みによる国内旅行の取扱額の減少により、平成29年2月分の主要旅行業者の旅行取扱額総額は4,087億円(前年同月比98.7%(注)5)と前年を下回っております。しかしながら、東南アジア諸国のビザ発給要件の緩和や消費税免税制度の拡充等により外国人旅行の取扱額は引き続き増加しており、また訪日外国人旅行者数は平成29年5月度時点で1,141万人(前年同月比117.3%(注)6)と前年の数値を上回る人数で推移していることから、訪日外国人旅行者に対する通訳ガイド、販売支援、多言語対応等のニーズは引き続き高まっております。

このようなマーケット状況のもと、当社グループは「事業創造企業への脱皮～更なる付加価値企業を目指して～」を合言葉に、アウトソーシングサービスを牽引するリーディングカンパニーとして、クライアントのニーズに成果で応える「成果追求型営業支援」の実践を継続いたしました。

その実践として、既存の家電分野、ブロードバンド分野、モバイル分野、ストアサービス分野の業務運営事務局(注)7の新規提案、収益改善に取り組むとともに、当社の全国拠点網を活用したセールスプロモーション提案の強化を継続いたしました。増加する訪日外国人旅行者への対応力強化につきましては、インバウンドビジネスの専門部署を中心に前連結会計年度に引き続き外国人スタッフの登録者数・就業者数の増加に向けた営業強化及び空港関連事業、多言語コールセンター、商業施設等における免税カウンターの一括運営受託の提案営業を重点的に実施いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は22,735,197千円(前年同期比5.8%増)となりました。また、営業費用において、過年度におけるスタッフ等の未払給与と計上やスタッフ確保のための募集費投下を積極的に行った結果、営業利益は2,132,800千円(前年同期比8.0%減)、経常利益は2,081,056千円(前年同期比10.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,243,939千円(前年同期比8.7%減)となりました。

(スタッフ等の未払給与計上について)

当社は、平成28年12月に労働当局より給与計算システム設定の誤りによる、時間外労働手当の一部に未払いが生じているとの指摘を受けました。直ちに全社的な実態調査を実施したところ、支払賃金のうち一部の未払いが確認されました。これにより平成29年1月中旬に過去2年分(平成26年11月から平成28年10月)の未払賃金等を該当事業へ支給いたしました。併せて、平成29年8月期第1四半期決算において、未払賃金等約96百万円を営業費用に計上いたしました。

なお当該事象については、給与計算システムの改修を実施し、既に適正な状況にて運用しております。

今後このような事態を二度と繰り返さぬよう管理体制を改善し、再発防止に努めてまいります。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

(アウトソーシング事業)

アウトソーシング事業におきましては、家電分野、ブロードバンド分野及びモバイル分野を中心とした業務運営事務局の受注に向けた提案及び収益改善を継続するとともに、キャンペーン受注の獲得及びストアサービス分野・コールセンター他分野における営業アウトソーシングの受注強化に取り組みました。

上記取り組みにより、モバイル分野において、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店における高速無線通信への加入促進を業務内容とする業務運営事務局の売上高が大幅に増加したほか、家電分野において外資系企業からの受注が増加いたしました。また、インバウンドビジネスの専門部署を中心に、増加する訪日外国人旅行者の取り込みを強化する小売業を中心とする流通各社に対する提案営業活動を強化した結果、首都圏エリアにおいて新規開店商業施設の免税カウンター運営の案件を新規に受注したほか、空港関連事業の受注が好調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,966,757千円（前年同期比5.4%増）、営業利益は1,848,450千円（前年同期比12.7%減）となりました。

(人材派遣事業)

人材派遣事業におきましては、家電分野、ストアサービス分野、コールセンター他分野を中心に、幅広い取引先からの案件の新規受注獲得及び訪日外国人旅行者向けの人材サービスの営業強化に取り組みました。家電分野におきましては、引き続き外資系メーカーを中心に新規案件の受注が増加した他、国内主要メーカーからの常勤稼働の人材派遣案件についても受注が好調に推移いたしました。ストアサービス分野におきましては、大手GMS・食品スーパーにおける人材採用難等に伴う需要拡大に伴い、引き続きレジ業務他幅広い職種での受注が堅調に推移いたしました。また、コールセンター他分野におきましては、訪日外国人旅行者向けの人材サービスの受注が好調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,632,737千円（前年同期比6.8%増）、営業利益は302,771千円（前年同期比40.8%増）となりました。

(その他)

その他におきましては、東日本エリアにおいて販売教育研修の案件を受注したほか、紹介手数料による売上が増加いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は135,702千円（前年同期比1.2%増）、営業損失は4,434千円（前年同期は231千円の営業損失）となりました。

(注) 1 アウトソーシング事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売</li> <li>生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売</li> </ul>
ブロードバンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定通信回線（光回線等）への加入促進業務</li> <li>インターネットサービスプロバイダーへの加入促進業務</li> </ul>
モバイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売</li> <li>次世代高速無線通信への加入促進業務</li> </ul>
ストアサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食料品やコスメティック・ファッションの販売</li> <li>カードの加入促進業務等</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスガイド業務</li> <li>展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務 他</li> </ul>
コールセンター他	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種受付コールセンター業務</li> <li>訪日外国人向け多言語コールセンター、免税カウンター</li> <li>流通、小売サービスセンター業務 他</li> </ul>

2 人材派遣事業における主要な取扱商材分野とその業務内容は以下のとおりです。

取扱商材分野	業務内容
家電	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル家電（大型薄型テレビ、デジタルレコーダー、タブレット端末等）の販売</li> <li>生活・家事家電（エアコン、冷蔵庫、洗濯機等）の販売</li> </ul>
ブロードバンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信回線獲得アウトバウンド</li> </ul>
モバイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話、高機能携帯端末（スマートフォン等）の販売</li> <li>次世代高速無線通信への加入促進業務</li> </ul>
ストアサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>生鮮食料品やコスメティック・ファッションの販売</li> <li>金融、カードビジネス窓口案内、カード会員の獲得</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内旅行・海外旅行添乗業務、バスガイド業務</li> <li>展示会、コンベンション、スポーツイベント運営業務 他</li> </ul>
コールセンター他	<ul style="list-style-type: none"> <li>コールセンター業務</li> <li>品出し、流通バックヤード業務</li> <li>営業事務、貿易事務、経理事務 他</li> </ul>

- 3 (出典) : 総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表(平成28年度第4四半期(3月末))」より
- 4 (出典) : (一社)電気通信事業者協会「事業者別契約数」(平成29年3月)より
- 5 (出典) : 観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」(平成29年2月)より
- 6 (出典) : 日本政府観光局「訪日外客数」(平成29年5月推計値)より

7 当社グループは、アウトソーシング事業において販売等のサービス提供を行う際に、クライアントの課題・施策を共有し、解決するために「業務運営事務局(ヒト・コミュニケーションズ事務局)」をクライアントごとに設置しております。当該事務局は、クライアントとの交渉窓口や販売等のサービス提供に関する施策の立案等を行う事務局長の下、各就業現場にてスタッフへの指示命令を行うディレクターを配置し、販売等のサービス提供に精通したスタッフから組成されています。各業務運営事務局は、スタッフの採用、研修制度の構築、販売等のカリキュラムの作成、就業現場のラウンディング(巡回)、クライアントへの販売等のサービス提供状況のフィードバック等、商品の販売、サービス提供に関する一連の業務を行っております。

それによりクライアントは、スタッフの管理負担及び教育負担の軽減が図れ、現場とマーケティング機能を分離することによる効率化等のメリットを享受することができ、クライアントの業績の向上につながっているものと考えております。

なお、当第3四半期連結累計期間における取扱商材分野別の売上高の概況は以下のとおりであります。

(a) 家電

家電分野におきましては、国内外の主要メーカーに対し常勤稼働案件及び商戦期のキャンペーン案件の獲得に向けた営業活動を実施した結果、外資系メーカーを中心に新規案件の受注が好調に推移いたしました。また、国内主要メーカーからの常勤稼働の人材派遣案件についても受注が回復いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,807,364千円(前年同期比5.9%増)となりました。

(b) ブロードバンド

ブロードバンド分野におきましては、既存の業務運営事務局において契約条件の改善に向けた交渉を実施し収益改善に取り組むとともに、全国各地において業務運営事務局の新規獲得に向けた提案営業に注力いたしました。

上記取り組みにより、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店におけるブロードバンドサービスの加入促進を業務内容とする業務運営事務局の売上高が増加したほか、代理店を中心に光コラボ関係の新規案件受注が増加いたしました。しかしながら、既存のブロードバンドサービス販売の案件の受注規模の縮小がありました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,876,022千円(前年同期比4.3%減)となりました。

(c) モバイル

モバイル分野におきましては、業務運営事務局の新規受注に向けた提案、商戦期のキャンペーン案件の受注に向けた営業活動を強化いたしました。

その結果、前連結会計年度より大手通信事業者から受注した全国の量販店における高速無線通信への加入促進を業務内容とする業務運営事務局の売上高が大幅に増加したほか、モバイル端末の販売支援を行うラウンダー業務につき、西日本エリアを中心に受注が増加いたしました。また、格安SIMの販売を業務内容とする業務運営事務局の新規受注が売上高の増加に寄与いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,388,342千円(前年同期比23.9%増)となりました。

(d) ストアサービス

ストアサービス分野におきましては、新規顧客に対する営業強化によりサービス取扱商材の拡大を図った結果、大手GMS・食品スーパーにおける人材採用難等に伴う需要拡大に伴い、引き続きレジ業務他幅広い職種での人材派遣案件の受注が堅調に推移いたしました。また、新規領域として大手GMSにおけるレジ・販売スタッフ等の採用代行業務の受注が首都圏を中心に拡大したほか、訪日外国人旅行者向けの販売業務の受注が増加いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,435,734千円(前年同期比8.2%増)となりました。

(e) 観光

観光分野におきましては、中近東・欧州の情勢不安等により海外旅行向けの添乗員派遣の伸び悩みが継続したものの、当社グループ拠点網を活用した全国的な営業活動の強化、グループ各社間でのスタッフ共有等の事業シナジーにより、スポーツイベント運営における案件受注が好調に推移いたしました。また、連結子会社の受注も好調に推移しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,523,015千円(前年同期比6.7%増)となりました。

(f) コールセンター他

コールセンター他分野におきましては、増加する訪日外国人旅行者の取り込みを強化する流通各社に対し、前連結会計年度に引き続き提案営業活動を強化した結果、首都圏エリアにおいて新規開店商業施設の免税カウンター運営の案件を新規に受注したほか、空港関連事業、訪日外国人旅行者向け人材サービスの受注が好調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,794,718千円（前年同期比15.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産の残高は、前連結会計年度末に比較して746,498千円増加して、12,286,268千円（前連結会計年度末比6.5%増）となりました。

流動資産の残高は、前連結会計年度末に比較して618,093千円増加して、9,325,656千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加830,467千円等がありましたが、売掛金の減少243,542千円等があったことによるものであります。

また、固定資産の残高は、前連結会計年度末に比較して128,404千円増加して、2,960,612千円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加202,993千円等がありましたが、のれんの減少34,445千円等があったことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の残高は、前連結会計年度末に比較して267,591千円減少して、3,183,600千円（前連結会計年度末比7.8%減）となりました。

流動負債の残高は、前連結会計年度末に比較して269,572千円減少して、3,004,722千円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少442,412千円、未払金の減少169,628千円等がありましたが、短期借入金の増加350,000千円等があったことによるものであります。

また、固定負債の残高は、前連結会計年度末に比較して1,980千円増加して、178,878千円となりました。主な要因は、退職給付に係る負債の増加3,260千円、役員退職慰労引当金の増加2,519千円等がありましたが、長期前受金の減少4,019千円等があったことによるものであります。なお、長期前受金は、四半期連結貸借対照表上、その他に含め表示しております。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の残高は、前連結会計年度末に比較して1,014,089千円増加して、9,102,667千円（前連結会計年度末比12.5%増）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加1,243,939千円がありましたが、剰余金の配当による利益剰余金の減少241,642千円等があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月23日に当社が公表いたしました「株式会社ビービーエフの株式の取得（子会社化）及び連結子会社等の異動に関するお知らせ」に記載のとおり、本件の当社連結業績に与える影響は現在精査中であります。業績予想の修正が必要な場合には速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,910,903	5,741,371
売掛金	3,600,828	3,357,285
前払費用	58,309	78,780
繰延税金資産	118,614	121,189
その他	18,904	27,028
流動資産合計	8,707,562	9,325,656
固定資産		
有形固定資産		
建物	828,777	838,079
減価償却累計額	△226,344	△254,562
建物（純額）	602,433	583,517
工具、器具及び備品	96,530	97,986
減価償却累計額	△79,897	△85,514
工具、器具及び備品（純額）	16,633	12,472
土地	1,272,197	1,272,197
有形固定資産合計	1,891,264	1,868,187
無形固定資産		
のれん	315,606	281,160
ソフトウェア	25,979	27,542
その他	5,274	5,864
無形固定資産合計	346,860	314,568
投資その他の資産		
投資有価証券	277,443	480,436
関係会社出資金	5,357	5,357
関係会社長期貸付金	82,000	124,000
破産更生債権等	—	82,852
敷金及び保証金	159,801	158,199
繰延税金資産	104,300	103,398
その他	13,728	15,374
貸倒引当金	△48,548	△191,762
投資その他の資産合計	594,083	777,856
固定資産合計	2,832,207	2,960,612
資産合計	11,539,769	12,286,268

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	100,000	450,000
未払金	1,818,472	1,648,844
未払費用	39,065	50,357
未払法人税等	764,383	321,971
未払消費税等	340,989	319,844
預り金	90,850	107,322
賞与引当金	87,888	92,792
役員賞与引当金	14,330	—
その他	18,313	13,588
流動負債合計	3,274,294	3,004,722
固定負債		
役員退職慰労引当金	82,797	85,316
退職給付に係る負債	33,413	36,673
資産除去債務	24,143	24,363
その他	36,544	32,525
固定負債合計	176,897	178,878
負債合計	3,451,192	3,183,600
純資産の部		
株主資本		
資本金	737,815	737,815
資本剰余金	609,788	609,788
利益剰余金	6,718,635	7,720,933
自己株式	△164	△164
株主資本合計	8,066,075	9,068,372
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	367	2,444
その他の包括利益累計額合計	367	2,444
非支配株主持分	22,134	31,850
純資産合計	8,088,577	9,102,667
負債純資産合計	11,539,769	12,286,268

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
売上高	21,492,196	22,735,197
売上原価	16,103,002	17,471,842
売上総利益	5,389,194	5,263,355
販売費及び一般管理費	3,070,844	3,130,554
営業利益	2,318,349	2,132,800
営業外収益		
受取利息	529	464
受取配当金	1,114	2,078
有価証券利息	674	1,806
受取地代家賃	3,060	3,100
受取保険金	3,103	41
雑収入	2,181	5,369
営業外収益合計	10,662	12,860
営業外費用		
支払利息	1,743	1,114
債権売却損	12	—
貸倒引当金繰入額	—	60,361
雑損失	184	3,129
営業外費用合計	1,940	64,604
経常利益	2,327,071	2,081,056
特別損失		
固定資産除却損	1,824	—
ゴルフ会員権評価損	1,400	—
特別損失合計	3,224	—
税金等調整前四半期純利益	2,323,846	2,081,056
法人税等	963,960	827,401
四半期純利益	1,359,885	1,253,655
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,921	9,716
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,362,807	1,243,939

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益	1,359,885	1,253,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	146	2,076
その他の包括利益合計	146	2,076
四半期包括利益	1,360,032	1,255,732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,362,954	1,246,015
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,921	9,716

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年9月1日至平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,144,840	6,213,209	21,358,049	134,147	21,492,196	—	21,492,196
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	18,534	18,534	—	18,534	△18,534	—
計	15,144,840	6,231,744	21,376,584	134,147	21,510,731	△18,534	21,492,196
セグメント利益 又は損失(△)(注)1	2,117,351	215,015	2,332,367	△231	2,332,136	△13,786	2,318,349

(注)1 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、社会福祉サービス、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年9月1日 至 平成29年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額
	アウトソー シング事業	人材派遣 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,966,757	6,632,737	22,599,495	135,702	22,735,197	—	22,735,197
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	40,722	40,722	—	40,722	△40,722	—
計	15,966,757	6,673,460	22,640,218	135,702	22,775,920	△40,722	22,735,197
セグメント利益 又は損失 (△) (注) 1	1,848,450	302,771	2,151,222	△4,434	2,146,787	△13,986	2,132,800

(注) 1 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、社会福祉サービス、教育研修等を含んでおります。

3 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社資産にかかる減価償却費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(株式取得による企業結合)

当社は、平成29年6月23日開催の取締役会において、株式会社ビービーエフの発行済株式の60%を取得することにより子会社化することを決議し、同社の株主との間で株式譲渡契約を締結いたしました。また、平成29年6月30日付で株式を取得したことにより子会社化しました。その概要は以下のとおりであります。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ビービーエフ並びにその子会社である株式会社ブランチ・アウト及び上海布藍綺国際貿易有限公司

事業の内容 EC業務支援サービス、TVショッピング支援サービス、衣料品の卸売及び衣料品のデザインの企画等

② 企業結合を行った主な理由

当社は、販売・サービス・営業分野を中心に、人材サービス提供によるアウトソーシング事業を行う「営業支援企業」です。中でも販売分野では、消費財から耐久消費財まで、その取り扱いが多岐に渡り、高い専門性により研修開発・人材育成から成果追求までを一括して請け負う販売支援事業を中核的成長エンジンとしてこれまで事業拡大を図って参りました。

現在の販売現場では、少子高齢化・人口減経済の進展等を背景に購買の多様化や消費行動の変化が顕著で、販売効率の改善や生産性向上等への対応が喫緊の課題となっております。中でも小売業界を中心として、実店舗とEコマースサイト等の複数の販売経路や顧客接点を有機的に連携させる「オムニチャネル」の強化に取り組む事業者が増加しており、当社は、営業支援事業の将来を見据え、「オムニチャネル営業支援」をテーマに、新たな事業モデルの構築についてこれまで検討を続けて参りました。

今回子会社化する株式会社ビービーエフは、Eコマース領域において、商品企画から販売・代金決済、物流、成果追求までのサービスを一貫して提供するフルフィルメントサービスに強みを持つ「ECサイト支援事業者」です。これまで蓄積してきたEC支援のノウハウを活かし、事業領域の更なる拡大や越境ECに於けるEC支援サービス事業の拡大を図ることが期待できる他、リアル・バーチャル双方のマーケットでの強みを持つ両社のノウハウを融合することで、将来進展が予想される販売現場におけるIT化への対応力強化を図り、「オムニチャネル営業支援」体制を構築し更なる事業拡大を目指す事を目的としております。

③ 企業結合日

平成29年6月30日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とした株式取得

⑤ 結合後企業の名称

株式会社ビービーエフ

⑥ 取得した議決権比率

60.00%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価に株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	4,285百万円
取得原価		4,285百万円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等(概算額) 80百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間  
現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳  
現時点では確定していません。

(多額な資金の借入)

当社は、株式会社ビービーエフの株式購入代金の一部として、以下の借入を実行しました。

(1) 借入先	株式会社みずほ銀行及び株式会社三井住友銀行
(2) 借入金額	2,000百万円
(3) 借入条件	TIBORを基準金利とした市場連動金利
(4) 実施時期	平成29年6月末
(5) 返済期限	平成39年6月末
(6) 担保提供資産又は保証の内容	なし